

埋文にいがた

No. 75
2011. 6. 30

新潟県埋蔵文化財調査事業団

平成22年度発掘調査遺跡の紹介

山口遺跡

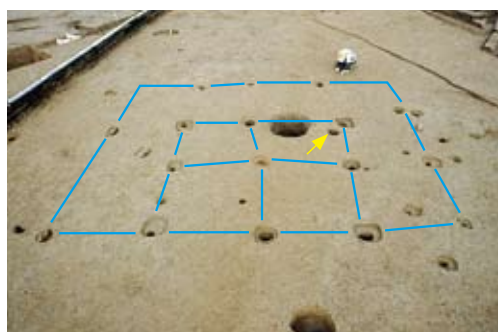
(阿賀野市山口字城ヶ窪2887ほか)

山口遺跡は、JR水原駅の西、約1.5kmにあり、阿賀野川や旧小里川によって形成された自然堤防上に立地し、標高は約6mです。平成20・22年度の調査で、弥生時代前期、古代（奈良～平安時代）、中世（鎌倉～室町時代）の遺構・遺物が見つかりました。唐三彩は古代（9世紀前半）の遺構から出土しました。

古代の遺構には、東北地方の官衙などで見つかっている材木列塀と呼ばれる区画施設があり、その内外から規則的に立ち並ぶ掘立柱建物8棟、竪穴建物2棟、井戸1基などが見つかりました。当時の役所である官衙に関連した遺跡と考えられます。

唐三彩は、中国唐代の7世紀中頃に完成したとされる彩釉陶器で、灰白色の素地に緑釉、褐釉、白釉、藍釉を単色もしくは複数かけられることが特徴です。その種類は大きく生活用具・模型・人物形象俑・動物形象俑・玩具に分けられます。玩具はおもちゃ、もしくは観賞用の愛玩具と考えられ、笛、人形、騎馬人物・動物（馬・駱駝・猿・像など）などがあります。唐三彩は、国内ではこれまで71遺跡で確認され、西日本を中心に出土しています。出土した唐三彩の種類には、主に生活用具（陶枕・杯・碗・皿・長頸瓶・壺・壺蓋・円面硯など）などがあります。これらは7世紀末以降に遣唐使節に関係する人物によってもたらされたものと考えられています。

山口遺跡では弦楽器・壺を模した玩具の2点の唐三彩が出土しました。唐三彩の出土例は県内初、玩具の出土例は国内初です。写真は弦楽器の破片で、弦を張った表現が7か所認められることから、7弦の古琴に類似します。胎土が良く、透明釉・褐釉・藍釉の3種が施されています。



3面廂付き建物と唐三彩出土地点(南西から)



P3069から出土した唐三彩の弦楽器の玩具

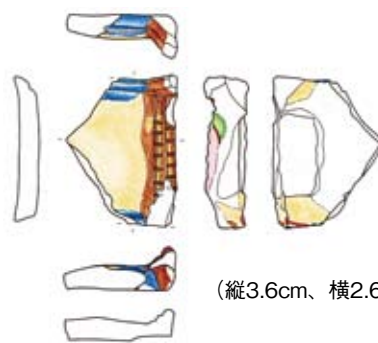
上面図



立面図



弦楽器の玩具 推定復元図



(縦3.6cm、横2.6cm)

弦楽器の玩具 実測図(正面・側面・裏面)
(参考資料：平成23年3月9日報道公開資料)

平成23年度発掘調査遺跡の紹介

おお さか うえ みら
大坂上道遺跡Ⅲ

(東蒲原郡阿賀町大字西)

本遺跡はこれまで磐越自動車道と今回と同じ国道49号揚川改良工事^{あげかわ}に先立ち、2度の発掘調査が行われています。今回は平成18年の調査の残り、約330㎡を5月9日から6月下旬までの予定で発掘をしています。

遺跡は津川盆地西側の標高約87mの河岸段丘上にあります。過去の調査で特徴的な土の堆積が分かりました。それはおよそ5,000年前、福島県金山町の沼沢湖を形成した火山から噴出物が流れ、津川盆地に堆積したものと言われる、さらさらした黄褐色火山灰由来層です。これを挟んで2枚の遺物包含層があります。この鍵層となる火山灰層の上層には縄文時代前期末葉から平安時代、下層が同じく前期末葉より以前の遺構や遺物が含まれています。西に隣接する猿額遺跡^{さるびたい}では、この火山灰層直下から縄文時代前期末葉の大木6式古段階^{だいぎ}のものが出土し、上層からも同様の土器が出土しています。

右上の写真は上層の遺構を完掘したところ^{たてあなじゅうきょ}です。左端には半分欠けた竪穴住居があります。ここからは縄文時代中期前葉の北陸系の文様を持つ土器が出土しました。上層では注目すべき石製品が出土しました。三角形岩版^{がんばん}と呼ばれる凝灰岩製の磨製石器です。2点は有頭状の端部が欠けていますが、表面に刻みを持つものもあります。この石器の用途はいま一つ分かっていませんが、緑色と大きな三角形岩版が一つの土坑から一緒に出土した状況から、その用途の解明に示唆を与えてくれるものかも知れません。石製品の時期は竪穴住居の土器と同じ中期前葉頃と考えられます。現在は下層を調査中で、縄文時代前期末葉の竪穴住居を5基、礫集積が数か所、扁平な石皿状の礫が入った土坑や石器素材剥片を集積したピット等を検出しました。(田海 義正)



右は磐越自動車道、左は国道49号揚川改良工事（西から）



上層の遺構（左端が竪穴住居 中央 掘立柱建物 右 土坑）



三角形岩版（下の石器幅90mm）



下層の石器素材剥片の集積

平成 23 年度発掘調査遺跡・整理作業・試掘確認予定一覧

発掘調査遺跡
位置図

● 本発掘調査

番号	遺跡名	事業名	所在地	調査期間	主な時代
1	おれあき 大板上道遺跡Ⅲ	国道49号 揚川改良	阿賀町	5・6月	縄文
2	がらめき 橋目木遺跡Ⅲ	国道49号 水原バイパス	阿賀野市	4～7月	古代・中世
3	こまかいづけ 小坂居付遺跡Ⅲ	国道8号 白根バイパス	新潟市	4～11月	中世
4	ちごつり 千古作遺跡Ⅱ	国道8号 柏崎バイパス	柏崎市	終了	中世
5	まちがみ 町上遺跡	国道17号 浦佐バイパス	魚沼市	5～11月	縄文
6	えんめいじ 延命寺遺跡Ⅱ	国道253号 上越三和道路	上越市	6～8月	古墳・古代
7	しもわり 下割遺跡Ⅵ	国道253号 上越三和道路	上越市	4～8月	古代・中世
8	にたんわり 二反割遺跡	国道253号 上越三和道路	上越市	8～11月	弥生～古代
9	ろびんだ 六反田南遺跡Ⅵ	国道8号 糸魚川東バイパス	糸魚川市	4～11月	縄文～中世

● 整理作業

番号	遺跡名	所在地	主な時代
1	おれあき 川久保遺跡	湯沢町	縄文
2	おれあき 大武遺跡Ⅱ	柏崎市	縄文
3	しもわり 下割遺跡Ⅴ	上越市	中世
4	ろびんだ 六反田南遺跡Ⅳ	上越市	縄文・古墳・中世
5	かみあし 上道下西遺跡	三条市	古代・中世

● 試掘確認調査

番号	事業名	遺跡・区間名	所在地
1	国道113号 鷹ノ巣道路	下川口	関川村
2	国道7号 小川交差点	小川	村上市
3	国道7号 新発田拡幅	中曽根～小舟町	新発田市
4	姥ヶ山インターチェンジ改良		新潟市
5	国道8号白根バイパス	白根ノ内七軒	新潟市
6	阿賀野バイパス	山口遺跡ほか	阿賀野市
7	国道8号柏崎バイパス	宝田～茨目	柏崎市
8	国道8号柏崎バイパス	赤坂	柏崎市
9	国道8号善久寺交差点		三条市
10	国道17号浦佐バイパス	大浦～十日町	南魚沼市
11	国道17号和南津改良	大浦～十日町	南魚沼市
12	国道8号直江津バイパス	三ッ屋～塩屋新田	上越市

埋文インフォメーション

平成23年度「発掘された日本列島2011」

文化庁は、毎年7,000件以上実施されている発掘調査の中から、特に注目された出土品を中心とした展示を構成し、全国を巡回させることによって、埋蔵文化財に親しみ、その保護の重要性に関する理解を深めることを目的に「発掘された日本列島」展を開催しています。「発掘された日本列島2011」は、2010年に発掘された発掘調査成果に基づく展覧会で、全国5か所で開催します。新潟市歴史博物館も開催館の一つに選ばれており、新潟市民や県民の皆様に全国各地の発掘調査の成果をより間近にご覧いただくことができます。

新潟県からも当事業団が発掘調査を実施した山岸遺跡が出品されます。

会 期：2011年8月9日(火)～9月11日(日) 31日間

〔休館日：8/22・29、9/5〕

会 場：新潟市歴史博物館（会場：企画展示室）

〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10

Tel. 025-225-6111 / Fax. 025-225-6130

観覧料

	個 人	団 体
一 般	600円	480円
大学・高校生	400円	320円
中・小学生	200円	160円

交通の要衝にあった鎌倉時代の屋敷。北条一門名越氏に関連する人物の居宅か～

やま きし
山 岸 遺 跡

(糸魚川市田伏字山キシ 863 ほか)

新潟県の南西端の糸魚川市に所在し、姫川右岸の小さな谷に位置しています。縄文時代早期末～江戸時代の遺構・遺物が出土していますが、平安時代末～鎌倉時代（12世紀後半～14世紀前半）の遺構・遺物が特に多く発見され、14世紀後半以降遺跡は縮小します。平安時代末～鎌倉時代の糸魚川市周辺は「沼川郷」と呼ばれており、山岸遺跡は沼川郷に所在した遺跡です。

平安時代末～鎌倉時代の遺構は、掘立柱建物・庭園遺構・井戸・水田・溝などがあります。掘立柱建物は220棟以上検出され、最大のものは9×7間（18.7m×14.7m、約270㎡）です。庭園遺構は水溜遺構や小型の園池とこれをつなぐ溝、景石などで構成されます。庭園遺構が造られた年代は、溝や水溜遺構から出土した土器・陶磁器から13世紀中頃～14世紀初め頃と考えています。

遺物は多数の土器・陶磁器や木器のほか、銅製の長柄の銚子が出土しました。これは、柄部の小片ですが、傘の模様が細工されています。傘は、北条氏一門の名越氏が家紋として使用したことが「太平記」に記されています。当地に関連する名越氏には、沼川郷地頭として13世紀末頃の史料に表れる名越宗長や、越後国守護の名越公時がいます。宗長は能登・安芸・豊前国の守護を兼任し、公時も越後国守護のほか越中・大隅国守護や評定衆という幕府の要職を務めた有力者です。山岸遺跡は名越宗長や公時と深くかかわる遺跡と考えています。（春日真実）



長柄の銚子柄



遺跡近景（南から）



鎌倉時代の土器・陶磁器

第18回遺跡発掘調査報告会のお知らせ

第18回遺跡発掘調査報告会を下記により開催いたします。報告会に関連する遺跡からの出土品は、新潟県立歴史博物館の秋季企画展「にいがたの土偶―発掘された新潟の歴史2011―」の一環として展示します。

発掘調査報告会では、近年の最新の調査内容についてスライドを使って分かりやすく報告します。報告会の前後には、報告会で紹介する遺跡の出土品解説も行います。皆様のご来場を心からお待ちしております。

新潟県立歴史博物館秋季企画展

「新潟の土偶―発掘された新潟の歴史2011―」

2011年9月23日(金・祝)～11月20日(日)

財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団の平成22年度を中心とした発掘調査成果とともに、新潟県内の縄文時代中期の個性豊かな土偶を特集して紹介します。財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団が新潟県各地で行った発掘調査の出土遺物や写真パネルなどの最新成果のほか、三条市吉野屋遺跡をはじめとして土偶がたくさん出土している遺跡の土偶を幅広く集めて展示します。

会期中には、発掘調査報告会のほか講演会等が催されます。お問い合わせ・お申し込みは博物館へ。

第18回遺跡発掘調査報告会

期 日：2011年10月2日(日)

会 場：新潟県立歴史博物館 講堂

〒940-2035 長岡市関原1丁目字権現堂2247番2

Tel. 0258-47-6130 / Fax. 0258-47-6136

交 通：JR長岡駅大手口7番乗り場から越後交通バスで約40分、博物館前下車。

運賃380円(博物館着初便10:40、博物館発最終便16:48)

日 程(予定)

11:00～11:50 展示説明会

13:00 開 会

13:10～14:40 報 告(六反田南遺跡Ⅴ・山崎遺跡・
小坂居付遺跡・山口遺跡Ⅱ)

14:40～14:50 新潟指定有形文化財の紹介
(滝寺窯跡群・大貫窯跡群出土品)

15:00 閉 会

15:10～16:00 展示説明会

※展示説明会は午前・午後とも同内容を予定しています。

※展示会場への入場は観覧料が必要です。

聴講無料

(定員150名 要事前申込)

申込先: 0258-47-6135 博物館

観覧料

	個 人	団 体
一 般	700円	560円
大学・高校生	500円	400円
中・小学生	無 料	

※団体は20名以上。

※常設展も観覧できます。

埋蔵文化財センター展示替えのお知らせ

当事業団が平成21年度に発掘調査した遺跡のうち、糸魚川市内の遺跡を中心に出土品を展示しています。展示遺跡は糸魚川市村前東遺跡・須沢角地遺跡・竹花遺跡・姫御前遺跡・大角遺跡です。大角地遺跡は縄文時代早期～前期の玉作の方法がわかる好資料です。10月末まで展示予定です。ぜひ、ご覧ください。

県内の遺跡・遺物73

け ぬき がた た ら
毛 抜 形 太 刀 (昭和60年 3 月 県指定)

(発見地:長岡市城之丘)



「毛抜形太刀」は、古代国家において天皇側近・宮中・京内の守衛にあたった軍隊である衛府の武官が佩用した儀仗太刀の一種です。名前は柄間（刀剣の手で握る部分）の毛抜形の透かしに由来します。身幅が広く、鞘も大きくかつ平たいところから、平鞘太刀の名があり、野戦に使うこともあるので野太刀の名もありました。この種の太刀は奈良時代の東北地方に多く出土する藤手太刀に起源があるとされています。毛抜形太刀は平安時代中期後半に盛行し、鎌倉時代以降は柄木をかけ、鮫皮もしくは銀板で包んだ上に毛抜形の金物を飾り付けるように変化していきます。

本太刀は大正2（1913）年頃、大河津分水工事の付帯工事であった落水分水路の工事中に、落水川（現島崎川）西岸の地下2mの川底から発見されました。詳しい出土状況は不明ですが、一緒に鋏が出土し、周辺からは人間の頭蓋骨・獣骨なども出土しました。土器等は出土しませんでした。

発見された毛抜形太刀は中程で折損しており、さらに鋒部が欠損していますが、ほぼ全身をうかがい知ることができます。現存長は75.6cmで、刃長59.6cm（先欠く）、元幅3cm、先幅2.5cmです。刀身は全体的に直刀に近いですが柄反りはきわめて強く特徴的な刀姿を示しています。鑄造りですが反りはやや少なく、棟は角棟ですが、多少丸みを持っています。柄部は刀身とは別に造られ柄部の区際を深く縦割にして刀身の元の部分を深く挟んで鍛接し、径0.3cmほどの2本の鋏で留めています。柄部にいわゆる毛抜形の透かしが施され、その長さは3寸（約9.09cm）です。柄部と刀身とが別に造られてつなぎ合わされている点が、一般的な毛抜形太刀において柄と刀身が共金で造られているのとは異なります。

本太刀はいわゆる正規の衛府太刀の素型あるいは、始原的なものであり、直刀から彎刀に移行する過渡的な形態を示すことや刀姿からみて儀仗的な様式もうかがえます。しかし、合せ鍛え等の技法からも武用の具としての機能をもつものであり、古代末期の製作年代を想定することができます。

本例は形態面において特徴的で、新潟県内では唯一のものであり、製作年代が想定できる点において資料的価値が極めて高く、古代末期の地方史究明の上で重要なものといえます。

昭和60年3月に県有形文化財考古資料に指定され、現在の所蔵者は長岡市教育委員会です。

参考資料:『和島村史 資料編Ⅰ 自然 原始古代・中世 文化財』[和島村1996]、『日本考古学辞典』[日本考古学協会1962]

資料提供:長岡市教育委員会

埋文にいがた No.75

発行 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1
TEL (0250)25-3981
FAX (0250)25-3986
E-mail: niigata@maibun.net
URL: http://www.maibun.net
印刷 株式会社ハイングラフ

『埋文にいがた』75号 正誤表

頁	行	誤	正
5	下から2行目	大角遺跡です。	大角 <u>地</u> 遺跡です。